

# 『コロナ禍の、アウトドア食育・キャンプスタイル』実践研究!

コロナの状況は、全ての人々のあまりに多くの可能性・楽しみをあきらめさせてしまっています。特に、未来ある子ども達にとって、この状況でも夢を実現でき希望を持てるかどうかは、大変に大きな問題です。私たちも毎年、ワクワクして実施してきた1週間くらいのキャンプを昨年は非常に縮小し、都内のキャンプ場で形ばかりのものをやるに止まり、それでも、大変喜んでくれた子ども達もいました。

しかしコロナ2年目だからこそ、対策を駆使した上で、昨年諦めた「キャンプらしいキャンプ」を何とか実現できないものかと、相談を重ねてきました。日常活動や合宿などで、重ねてきた工夫も取り入れ、更にアウトドアならではの新たな試みを盛り込んで、キャンプ生活を可能な限り個人レベルで自力で楽しめる集合体キャンプ計画の大枠を、以下の様にまとめました。

4月からのワークショップで、これらのアイデアを試し、修正を加え、夏の本番キャンプへ繋げてゆきます。

## A.一人ずつのキャンプ装備を吟味する:オシャレ・カッコいい・かわいいなど、やる気の出るものを揃えよう!

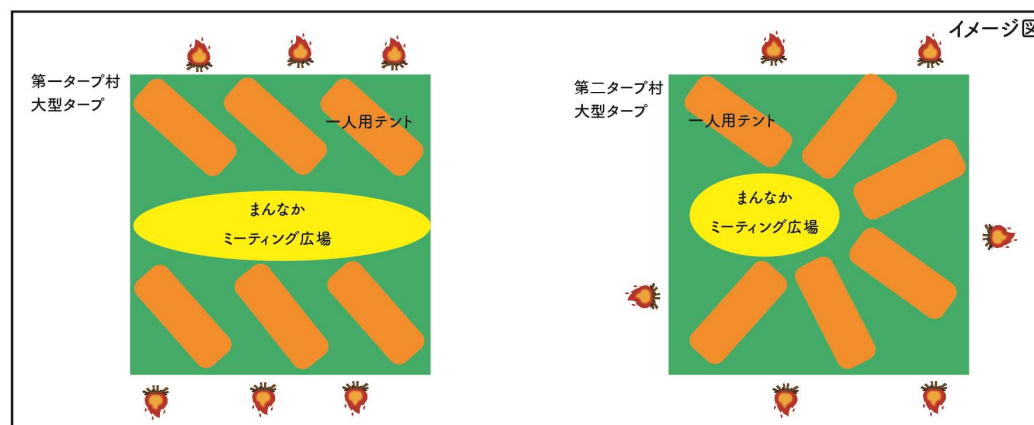
- ①調理バッグ/まな板・包丁・菜箸・オタマなどを手提げバッグにまとめる。日常的に使い、慣れる。
- ②調理コッヘル/鍋・フライパン・バーナーのキャンプセットにメタルマッチ、綿、紙などを加える。
- ③食器コッヘル/ヤカン・皿・椀・コップなどのセットを好みに応じて選ぶ。
- ④コロナバッグ/身に着けたマスク・ハンカチ以外に、予備のマスク・ハンカチ、アルコール、ハンドクリーム、体温計を、コンパクトにまとめて携帯する。
- ⑤一人用テント/フライシートの無いシンプルで広めのものを全員が持つ。



## B.ベースキャンプの設計:雨除けの大タープの下に、テリトリーユニットの集合体としての「集落」を構成する。

テリトリーユニット/外側向きのミニカマド{バーナーも}と一人用テントなどで一組。放射状に配置する。定員を超えた場合、第2集落を作る。炭火おこしを1か所で行い、皆のカマドに提供する。

5メートル四方のタープの下に一人用テントを6張を設置。



## C.使いこなしワークショップ

「羽根木プレーパーク」にて、4~7月にかけて、月1で実施。一人カマド、調理セットで実際に、魚や鶏を焼いたり、炊飯したり、スープやなべ物を作ったりして、実践力を高めます。全体を通して動画をまとめて、秋に上映会と収穫祭を行って、締めくくります。

「こんなこともできるんだ」と、多くの人・団体への参考例にして頂けたら、嬉しい限りです。頑張ります!